令和１年度　学校関係者評価報告書

専門学校ファッションカレッジ桜丘は「夢の創造」･「文化の創造」を提供し続けるエクセレント・カレッジ（excellent　college）を目指すことを標ぼうし、夢を創造し、文化を創造することが、ファッションを教授する服飾系高等教育機関の基本と考える。
専門学校ファッションカレッジ桜丘自己評価の結果に関して客観性と透明性を高めるとともに、学外の有識者から専門的助言を受け、外部評価を得ることを目的として学校関係者評価を実施しましたので報告致します。

１、実施年月日　令和２年８月７日
　実施校　専門学校ファッションカレッジ桜丘
２、学校関係者評価委員
　　小野芳行（元 YKK 株式会社）
　　椎野伝一（有限会社丸伝代表取締役　流通総合コンサルタント）
　　西室充子（卒業生　日本ファッションクリエーター協会）
　学校関係者
　　関　　太（校長）
　　岩嵜達弥（事務長）
　　菊池伊都子（教務部長）
３、評価方法
　令和１年度　専門学校ファッションカレッジ桜丘自己評価報告書に対する
　学校関係者評価
４、評価項目
　（１）　教育理念・目的・人材育成
　（２）　学校運営
　（３）　教育活動
　（４）　学習成果
　（５）　学生支援
　（６）　教育環境
　（７）　学生の募集と受入れ
　（８）　財務
　（９）　法令等の遵守
　（１０）社会貢献・地域貢献

令和１年度　自己評価報告書

学校法人桜丘学園　専門学校ファッションカレッジ桜丘

基準１．教育理念・目的・人材育成

学園の基本理念は「夢の創造」･「文化の創造」を提供し続けるエクセレント・カレッジ（excellent　college）を目指すことを標ぼうし、夢を創造し、文化を創造することが、ファッションを教授する服飾系高等教育機関の基本と考える。学園は他の服飾系専門学校と一線を画し、独自の価値観と行動様式を持ち、桜丘学園らしさ、固有性を積極的に持つことである。また、教育理念は「学生一人ひとりを大切にし、愛情をもってきめ細やかな指導で、専門知識・技能の習得および人間性豊かな人材を育成する」。教育理念の根本は普遍的なものであるが、学園の教育目的やその目的を達成する人材育成は時代の変化に対応する必要がある。現在ファッション業界のみならず産業界全体にデジタル化の流れが急加速している。ファッション小売業も顧客との接点をリアル店舗、アプリからeコマースに至るまで最適な小売り体験を提供するオムニチャンネル化への進化から、ＡＩ（人工知能）を活用したマーケティング、マーチャンダイジング。また、デジタル化されたものがインターネットを介して伝達されるＩｏＴ化へと加速度的に変化している。学園に於いてもＩＣＴ教育を推進することにより、この時代の変化に対応する人材育成が次のステージに向けての最重要タスクである。今後はファッションの分野に留まらず新しい分野の学科を開設することにより、学園の教育の幅を広げ産業界に貢献する教育機関、人材育成を目的とする。

教育理念・目的・人材育成に関してご意見をお聞かせください

＊教育理念の基幹は不変であって良いが取り巻く環境の変化などへは鋭敏に対応し、桜丘学園を更なる高みへと願います。

（ファッション産業もデジタル化へのシフト等、大きく流れが変わっています。そのことを踏まえ教育理念も時代に合わせて対応して参ります）

＊第一に教育とは現在における自身の知識・能力・技術レベルを理解させると同時に今不足しているものを認識させることにより、今後の学びの動機付けを行なうこと。第二に、より学びたいと思う者に対して、努力の方向性と学び方を示唆すること。以上の２点だと思われる。

（限られた時間の中でカリキュラムを消化している状況になりがちであるため、再度学びの動機付けや学びの方向性を示唆することを念頭に置き対応したい）

＊「学生を教育するには先ず人間性。それは学生一人ひとを大切に愛情をもって…」という事が非常に大切に思われる。ファッションの分野のみでなく、新しい分野の学科を考慮し、時代に沿った教育にしていくことが良い教育方針だと思う。桜丘の人材育成にはいろいろ含まれていると考えている。

（教育方針にご理解を頂きありがとうございます。きめ細やかに対応できる規模ですので知識、技術の教授以外に社会人として、また一個人としての人間性を高めることができる様、今後も継続して参ります）

基準２．学校運営

学園の基本理念・教育理念に基づき、事業年度毎に事業計画を作成し、理事会、評議員会の承認のもと、教職員全体会議で全教職員に周知徹底され、計画的に実践されている。
教育事業の根幹は教務部が担い、学校全体のプラットホームは事務部が整える。学校継続の推進力となる学生募集、広報活動は企画部が担当して各部が責任をもち連携して事業にあたる。また学内の行事を学内プロジェクトと位置付け、プロジェクト委員を任命し、校長、教務部長、事務部長を中心にプロジェクトリーダーと連携して事業運営にあたる。カリキュラムの編成に関しては、各教職員、外部講師、業界関係者との情報収集により、業界のニーズに即したカリキュラム編成を実践する。学園組織は年度毎に見直し、実際の学園運営と組織体との整合性のチェックが行われている。各教職員の行動計画や情報提供はインターネット上に公開し、効率よく機能的に運用できる様に管理、提供されている。

学校運営に関してご意見をお聞かせください

＊教務部、事務部、企画部がそれぞれの目的、役割を担い深耕させているようであるが縦割りに陥りやすい懸念を理事長、校長を初めとした全教職員による共有化によってこの懸念が払拭されてる３体制であると思われる。

（ご指摘の通り、過去は縦割りで情報交換がスムーズに行かない時期もあったが毎週月曜日に各部門の長が連絡会議的に情報交換することで風通しを良くしている）

＊今回のコロナ禍で、図らずも弱点が顕在化したアパレル産業。特に小売業の著しい衰退に比べ、ＥＣやＶＲといった新しい分野の成長が見られる中、今後のカリキュラム編成でも、ＥＣやＳＮＳなどデジタル分野を始めＶＲ、ＡＩなどファッションテック関連にスポットを当てる必要があるように思われる。
例えば、バーチャルファッションショー、３Ｄ－ＣＡＤ、Ａｍａｚｏｎ研究、Ｄ２Ｃ、ＯＭＯなど

（実習の多い課程の為、リモートでの学習に難しさを感じる部分はあるが、創意工夫で解決していきたい。また、デジタル化の流れに関しては、第七分野の服飾・家政に留まらず、第一分野の工業課程でプログラミングやＷＥＢデザインの分野まで広げていきたいと考えている）

＊教務部、事務部がそれぞれ責任をもって進めている。お互いに話し合いを持つことを実証し運営していることが大切であると思う。

（教職員全員に何らかのプロジェクトの中心的役割を担うように振り分けている。そのことにより学園全体の動きや各部門との連携、調整が発生し各個人のスキルアップにもつながっている）

基準３．教育活動

平成２８年に導入した選択制カリキュラムも４年が経過。ファッション業界のニーズに合わせながらカリキュラムの編成を変えてきた。ファッションクリエイト科、ファッションビジネス科と学科別に縦割りになるカリキュラム構成を選択制にすることで全ての学科で横断的に受講できる体制で学生交流や学びの幅を広げることができる。２年生、３年生からの選択であるため、ファッション業界の第一線で活躍している有識者を招聘することにより、高度な授業が展開され学生の満足度の高い。学習の成果である一般財団法人日本ファッション教育振興協会のパターンメイキング検定２級、３級対策も充実し、受験合格率も高い。また、今後ますます重要度がます、イラストレーター、フォトショップ、アパレルＣＡＤなどのソフトの習熟度も少人数制での指導により大きな成果を上げている。

教育活動に関してご意見をお聞かせください

＊選択制カリキュラム導入を通して横断的なカリキュラムを受講できる体制で学生交流や学びの幅が広がった。これを更に深めていく方策の継続をお願いしたい。

（時代のニーズや学生のニーズに合った選択制カリキュラムに毎年見直し、更にブラッシュアップしていきたい）

＊年間を通じてのカリキュラムで対応が難しいマーケットの変化やトレンド情報などを提供するため、スポットでの特別講義や短期間でのワークショップなども有効ではないか、例えば専門店の会議見学（バイヤー会議・店長会議）、他専門学校との交流

（以前は特別講義を途中開催していたが、最近は余裕がなくなってきている点は反省材料である。今後は旬をテーマに特別講義や外出授業も多く組み入れていきたい）

＊ファッション業界のニーズに合わせたカリキュラムを打ち出していること。互いのファッションクリエイト科、ファッションビジネス科のカリキュラム構成の選択制は学生にとっても良い教育につながるし、交流も出来るので良い方法である。

（選択科目にご理解を頂きありがとうございます。
選択科目でも講義形式のカリキュラムは系統立ててシラバスを構築することができるが、実習形式のカリキュラムで学生個人のスキルで進度や完成度が変化する場合、その講義の課程で指導内容や方法をアカデミックに構築することの難しさを感じている）

基準４．学修成果

学習の成果を出来るだけ可視化することを目的として学園では必須検定として受験している、一般財団法人日本ファッション教育振興協会のパターンメイキング検定３級１次の筆記試験は１００％合格したものの、２次の実技試験では合格率が７５％と全国平均を下回った。ファッション販売能力検定２級、３級とも合格率が４３％と僅かだが全国平均を上回る。検定以外も論理的思考や表現力、説得力など学生個々の能力向上を目的として１年生ではマーチャンダイジング、ファッション画、コンピュータワークで成果をプレゼンテーション。２年生、３年生はファッションデザイン、ブランドクリエイションで成果発表を行う。

また学内２大コンテストであるＦＣＳファッションコンテスト、ＦＣＳプロモーションコンテストで学期末１年間の学習の成果を発表する機会を設けている。就職支援に関しては、大手就職支援企業による専門カウンセラーの就職セミナーを実施して就職活動本格化前に動機付けを行っている。また、１年次の学期末には、学内に企業を招聘し、企業情報、職種情報、働く事の意義などの講義をし、就職活動の事前準備に充てている。校外授業やインターンシップを活用して、実際の企業を訪問し、働く現場を見学、体験する事により、より具体的、現実的に就労の意識を持たせている。

学修成果に関してご意見をお聞かせください

＊学習成果は可視化が可能であり、明確な数値目標の設定も可能であると思われるのでこの設定と検証の継続。

（学習成果に関しては時系列でデータを取り蓄積している。データは数値であるのでそこから何が読み取れるのかが重要でデータ量が多くなればなるほど、正確な検証が出来、対策も講じられる思う。今後も継続したい）

＊デザインコンテストや企業主催のコンペへの積極的な参加を促進し、受賞者はＨＰなどの露出を増やし、特別奨学金などのプライズも考えられるのでは。ファッションビジネス科では産学協同をより推進し、ビジネスプランや商品提案で採択された者へのプライズの充実を図ることが、学生総体のレベルアップにもつながるのではないか。

（学校の特徴として学生間の競争をあまり促していない、そのことが学習の停滞や伸びの鈍化を　招いているとの懸念もある。一定程度な競争と、今後、学習成績優秀者への奨学金など参考になったので今後検討したい）

＊ファッションの専門学校に入学した以上、１人でも多くの検定試験に合格するよう指導することは学生の励みになる。ファッションコンテスト等はデザイン力、製作力が養えるし自分のデザインの洋服が舞台に出ることの喜び又は意欲も出る。私自身もそんな気持ちになった記憶があり。企業による就職セミナーは良い企画。インターンシップは大いに活用すべき。

（ファッション業界には国家資格的なものが無く、他校は検定受験に対しては学生個人に一任している。本校ではパターンメイキング検定、ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定を必修検定として検定料は学校が負担している。検定は学習の成果を正当に可視化できるツールであり、活字離れしている学生にテキストと向き合う良い機会であると認識している。また、就職活動に於いては現在現場で活躍している現役の企業人を講師として招聘することにより、より現実味があり厳しさを正確に伝えることができる）

基準５．学生支援

現在日本では２．６人に１人が奨学金を利用して進学している環境下、当学園においても経済的な不安、負担を感じながら学業とアルバイトを両立し就学している学生が散見される。

学業以外の過度なストレスが学業の遅れ、遅刻欠席過多、退学等に発展する恐れがあるため、個々の学生の生活環境を正確に把握することで防止につながる。学園では前期、後期の期初に担任が受け持ち学生に対して時間をかけて個別面談を実施している。この個別面談で学生生活での問題点や学外の生活、家庭環境での問題を早期に把握し、学習の停滞や生活の乱れ、退学などを防ぐ対策を講じている。この個別面談の情報は全ての教職員で個人情報を厳格に管理された上で共有され、全ての教職員が同様の対応が取れるよう整備されている。また、専門学校は職業教育が使命であるため全学生の就職を目指し、就職情報の提供や個別の面談、就職指導を実施して大きな成果を上げている。また、社会人としての意識付けのためにボランティア活動に参加するなど指導を行っている。その他、学内行事に於いても、学生内で担当の係を決め、学生の自主性を大切にし行事を運営することを心掛け、リーダーシップ、協調性、計画性などを高められるよう指導している。

学生支援に関してご意見をお聞かせください

＊今年は特にコロナ禍の影響もあり、学生支援が非常に大きな課題であり、必修であると思慮されますので例年以上の対応、支援をお願いします。

（国などが学生への支援策を打ち出しているが、手続きや提出書類が煩雑で学生が一番苦手とする作業。制度の説明、手続きの方法、提出書類のチェックなど、個人別にきめ細かく対応して学生のストレスを緩和している。また、アルバイトが出来ないなどの問題で学費の納付が期限内に出来ない学生には柔軟に対応している）

＊就職活動における有力なツールとして、学生にポートフォリオの作成をさせたらどうでしょうか。（作成手順はＨＲなどで教える）またデザイナーやパタンナーなどの技術職については、従来の有名アパレル企業より、ブランドのＯＤＡ、ＯＥＭを担当している産地での求人にも対応するよう、学生指導を推進したらどうでしょうか。

（ファッションビジネス科のポートフォリオ作成は盲点でした。今まで販売職は超売手市場だったので、問題なく就職できたのが実情です。しかし、コロナ禍で様子が一変しましたので検討したいと思います。ＯＤＡ、ＯＥＭは現在も推奨していますが, 更に進めていきたいと思います）

＊学生のアルバイト時間が多くなると授業に遅れがでて退学につながる。防止するため担任が学生との個人面談を実施すると学生の生活がわかり、話すことにより信頼感もでる。頑張る力もでる。全教員も助け合っている姿勢も見える。ボランティア活動も学生にとっては良い勉強になることでしょう。

（本校の特徴は各担任の学生の情報力と良好に構築された関係性です。一人ひとりの状況を的確に把握してスピーディーに対応することができます。高校進学の形態も多様化して従来通り、登校をしない通信制高校への進学率も上昇しています。それらの状況を踏まえ事前知識を持ち適切に学生に対応しています。ボランティア活動は、学生個人としてなかなか参加する機会がないと思います。身近なところから学校主体で参加することによりボランティア活動の意義を教育してまいります）

基準６．教育環境

学内に於いては、換気、採光、照明及び保湿等を適切に行い、環境を清潔に保ち学習が実施されている。水質試験検査、消防設備点検など法令を遵守し、実施され学生の安全を確保している。ＩＣＴ教育を推進する上で学内のインターネット環境の整備。パソコンをノートパソコンに更新することによりすべての教室にＷｉ－Ｆｉ環境を整えパソコンを使用した授業を推進している。施設、設備は常にメンテナンスを怠らず清潔に保ち、学習機器も時代のニーズに合った機器に常に更新している。

教育環境に関してご意見をお聞かせください

＊学生支援同様、今年度はコロナ禍にあり、一層の環境対応が望まれます。

（現状対面授業を実施していますが、今後はリモートで授業ができる様に学生が登校している時に学内でリモートの練習をしている。ミシンを使っての実習に関しては、自宅にミシンの無い学生も多いので早急に対策を考えたい）

＊今回のコロナ禍でも課題となった、リモート授業をより実施しやすい環境つくりの一環として、学生個人でのＰＣ所有を進めるべきではないでしょうか。入学してからでは新規の出費となりハードルが高くなるので、入学時に他の教材とともに購買を推奨することも考えられます。

（桜丘への入学の動機は１つは年間の学費が安いことが挙げられます。その為、奨学金を利用する学生も多く、ご指摘の通り入学後に購入させるのはハードルが高いと思います。機器だけではなく通信環境の整備やそのランニングコストも課題になります。今後、慎重に検討したいと思います）

＊桜丘は少人数制で手の届く教育になっていて良い。

（ご理解頂きありがとうございます。今後も業界の変化に対応して設備、機材を見直し対応していきたいと思います）

基準７．学生の募集と受入れ

学生募集に於いては、第一に業界理解に力点を置いている。職業人育成の観点から正しく業界を理解することが重要である。そして、学園の教育理念を説明し、多岐にわたる入学制度、カリキュラムの内容など学びの環境の理解を深め出願につなげている。他校との差別化は設備の個人使用度合いや教員からの教授を受ける頻度、密度の高さが高度な知識、技術が習得できる利点であることを丁寧に説明している。ホームページや学校案内では表現できない部分を来校した生徒に説明し、高い来校者出願率を誇っている。入学対象者の進路希望状況を一元管理しデータベース化する事で教職員全員で共有し、学生募集にあたっては学内全教職員で対応できる体制を整えている。

学生の募集と受入れに関してご意見をお聞かせください

＊業界理解に力点、職業人育成視点と学生募集に於いても、学園理念が明確である。

（中途退学を防止するにはミスマッチを防ぐことが重要であると思います。現実の業界

の実情を業界経験のある教職員が丁寧に説明することでより一層業界、職業理解が進められる）

＊土、日などを使い模擬授業を実施したらどうでしょうか。オープンキャンパスでは、授業の様子が伺い知れないので、入学希望者などの興味を引く試みだと思います。

（現状桜丘では、学生サポーターを動員して体験授業を実施しています。ファッションクリエイト系、ファッションビジネス系の授業のカリキュラムを簡素化したものを体験のカリキュラムして実施。学生が実際の授業の雰囲気などを説明しています）

＊現在の社会情勢として大変な時代ながら内容の充実した学校となっていることをアピールする。また、学校案内の中にタレントのユニフォームの衣装デザインが学生との事は大いに宣伝として使うと良い。

（動きがある学校が生徒にとり魅力的な学校に映るのではないでしょうか。ホームページ、ＳＮＳの更新速度、時代に合ったタイアップなど、保守的にならず何でも挑戦するスタンスで臨んでいきたい）

基準８．財務

学生納付金収入は安定しているが、もう一段の入学者確保が必要である。人件費は減少傾向にあり、経費も適切に管理されていて予算執行も問題ない。流動資産の金銭信託は含み損が増加傾向にあり、資産が毀損しているので計画的に改善することが必要。学園所在地は再開発地区でもあり、保有資産内容が変わることも想定されるので、情報収集をしっかりと行い今後も慎重に対応したい。

財務に関してご意見をお聞かせください

＊学園運営においても財務基盤の安定化は欠かせない事項であり、予算管理、検証は厳格化は必須である。

（予算、実績等の情報の共有化は進められているが、資産運用に関しては閉鎖的であるため最低でも常務理事間でのコンセンサスは必要であるとの認識している）

＊良く検討し、しっかり運営して欲しい。

（財務基盤の安定は学校経営の根幹であるので安全安定を基本に運営したい）

基準９．法令等の遵守

警視庁、東京都、千代田区からの情報に関しては、必要に応じて教職員は朝礼及び全体会議、教員会議で伝達され、学生に於いては午前午後のホームルールで伝達されている。学生に対しては法令違反を未然に防ぐため、講習会や冊子の配布を適切に実施している。また、学内で決定された規定に関してはパソコン上の共有フォルダーに保存されいつでも閲覧できる状態である。

法令等の遵守に関してご意見をお聞かせください

＊昨今コンプライアンスに対する意識の高まりもあり、継続した運用をお願いしたい。

（課題としては学生のＳＮＳの活用方法。安易に情報を公開したり、言葉の選び方で社会問題となっているケースがある。ＳＮＳに関する教育も早急に検討したい）

＊未成年者の校内喫煙について、もう少し厳しく指導したらどうでしょうか。
１年生の一部が喫煙しているようなので。

（千代田区は路上喫煙禁止地域で、学内での喫煙を厳しく禁止すると学外で喫煙をする恐れがあるので、学内での喫煙を黙認していたが、ご指摘の通り、法令違反であることは間違えなく、健康管理面でも今後は指導していきたい）

＊教職員で協力し合い、違反等未然に防ぐ努力をしているが、しっかり教育して欲し。

（法令の遵守は根気強い広報活動が重要であると認識している。今後も定期的に継続的に学生に向けて情報提供と教育の場を設けていきたい）

基準１０．社会貢献・地域貢献

千代田区生活環境条例に基づき６月に学園全体で千代田区一斉清掃に取り組み近隣の環境美化に貢献している。また、地域の町内会との交流を積極的に行い地域の振興に協力している。ミシンＬａｂｏ桜丘を開設し、ミシンなど服飾関係の設備を開放し、物造りの楽しさや、洋服のリメイク、リサイクルに対する地域貢献活動を行っている。

社会貢献・地域貢献に関してご意見をお聞かせください

＊社会貢献、地域貢献も希求される事項であり、桜丘ではミシンLabo などの実績がありますので、この数値化などによる発信も有効かと思慮。

（地元との交流を深めることにより、学園の運営の理解を得て、円滑に教育事業が推進できると考えています。今後は実施されている事業内容を掲示やＳＮＳ、ホームページなどを使い発信していきたいと思います）

＊築土神社祭礼や盆踊り、募金活動への協力など考えたらどうでしょう。
特にお祭り関係は留学生たちには喜ばれると思いますが。

（以前より学生にイベント参加で声掛けをしてきましたが、なかなか反応が悪く、学園として積極性を欠いていました。仕組みも含め再度検討したいと思います）

＊千代田区一斉清掃については長い間実施しており、これからも地域に協力して欲しい。

（近隣には新しい住宅が建設され千代田区も夜間人口が増加しています。今後は大規模災害も起こりえる時代ですので、学生の安全の為にも地域と連携を図り、地域と共生してまいりたいと思います）

以上